

安心パチンコ・パチスロアドバイザー 遊技客を見守り 異変に気付く

好きなことや楽しいことにのめり込むことは、往々にして起きる自然な行動だ。しかし生活に大きな支障を来たすようでは、度が過ぎている。遊技客の度が越えないように見守り、生涯顧客の数を保つこと。それが安心パチンコ・パチスロアドバイザーの役割だ。

全日遊連が昨夏に実施した依存対策実施状況調査によれば、遊技客から相談されたこ

とがある店舗の割合は9.4%だった。前年と比べると2.7ポイントの増加。「自分は依存しているのか」「やめられない」「やめさせたい」「遊び方」「利

用金額」といったことを尋ねた遊技客が多かった。

相談を受けた店舗の割合が高まったからといって、「遊技業界の依存問題が拡大している、深刻化している」と捉えるのは早計だ。高まった主な理由は、おそらく依存問題に関

心をもつ遊技客が増えたためだろう。緊急事態宣言下のバッシング報道では、開店待ちや越県する遊技客に「我慢できない大人たち」というレッテルが貼られた。これを機に遊技との付き合い方を考え直した人が多かっただけに違いない。

遊技客が店舗に相談を持ち掛けやすくなったことも理由の一つだ。安心パチン

会員登録申し込みデスクにはRSNのリーフレットを備えている



コパチスロアドバイザーが自店にいることを知らせるポスターを掲示する店舗は、この1年間で65.0%から80.8%までに増えた。これを見た遊技客がリカバリサポート・ネットワークの電話相談ではなく、顔見知りのスタッフに尋ねてみたのだろう。RSNへの電話相談件数は前年よりも少ない件数で推移している。

2017年4月から始まった安心パチンコ・パチスロアドバイザー制度は、06年4月に発足したRSNよりも歴史が浅い。遊技客からの認知度もかなりの差があり、RSNポスターの認知度は85%（弊社調査）であるのに対し、アドバイザーの認知度は35%（日遊協調査）に留まっている。今後、アドバイザーのポスター掲出率が高まり、認知度が広がるにつれて相談数も増えていくことに期待したい。

